

岡山中央福祉会 2019年度事業報告

社会福祉法人 岡山中央福祉会

I 法人を取り巻く情勢について

2018年介護報酬は、全体で0.54%の引き上げに止まり、さらに総合事業への移行によって通所事業、訪問介護事業所を中心に事業所経営が深刻なものとなった。次回改定は2021年度で抜本的な介護報酬改定・介護保険制度見直しに向けて大きな運動が求められている。民医連のみならず、県経営協、老健協、老健協など幅広い他団体との協力共同の取り組みをひろげたい。

4月から厚労省は働き方改革法を施行しました。有給休暇の年間5日間の消化の義務付け、超過勤務の上限設定、同一労働同一賃金と働きやすい職場づくりのためには、意味のある改革ではあるが、介護業界では人手不足の中でますます直接ケアに携わる時間が短縮しケアの質の低下が危惧されています。必要な人材が確保できる環境の整備は絶対です。

10月の消費税の10%への引き上げに伴い介護職員等特定処遇改善加算制度が実施されたが、職員の給与改善策については経験の長い介護職員に月額8万円の引き上げの内容とは程遠く、非介護職員も対象としわかりにくい仕組みになっている。今後、更なる改善を求めることが必要です。

昨年11月中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、世界中で700万人が罹患し50万人の死亡者を数え戦後最悪のパンデミック感染症となった。日本においては、本年2月から感染が拡大し1万7千人の感染者が発生し4月27日には全国に緊急事態宣言が発動され外出自粛、学校の休校、飲食店の閉鎖など社会生活の停滞と経済活動の停止により甚大な被害が発生した。また、医療機関における医療崩壊、介護施設におけるクラスター感染の発生によって介護崩壊が起こった。さらに、コロナの影響で失業者の急増、中小・零細企業の倒産、生保受給者の急増によって今日の我が国の社会保障の根幹がいかに脆弱かをしめした。

岡山県内では、新型コロナ感染者が25名、死亡者ゼロで大規模な感染拡大には至らなかった。しかし、クルーズ船県内の乗客に対して、その後の陽性者の発生により各地で噂話、風評被害が報告されており閉鎖的な地域性や感染症に対する偏見の課題も残された。今年冬に予測されている第二波の到来に備えた取り組みが急務である。

2、2019年度の目標

- (1) 改正社会福祉法人法に基づき内部統制の仕組みづくりを進めます
- (2) 地域住民のニーズに応える事業所展開と事業内容の質の向上につとめます
- (3) SDGSの理解と実践で地域社会へ企業・社会福祉法人としての役割を果たします
- (4) 「ふくし」の視点を持ち、人を大切に、平和を希求する人材育成につとめます

3、評議員会・理事会・監事の役割と開催

評議員会は、定款の定める重要事項を決定する最高意思決定機関

理事会は、業務執行の決定を行い日常経営に責任を持つ業務執行機関

監事は、理事会の意思決定に参加すると同時に理事の職務の執行を監査する機関

	評議員会	理事会
第1回	6月21日(金)	4月24日(水)
第2回	9月25日(水)	5月31日(金)
第3回	11月27日(水)	6月21日(金)
第4回	3月25日(水)	7月31日(金)

第 5回		8月29日 (木)
第 6回		9月25日 (水)
第 7回		10月28日 (月)
第 8回		11月27日 (水)
第 9回		12月25日 (水)
第10回		1月31日 (金)
第11回		2月26日 (水)
第12回		3月18日 (水)

監事監査	
第 1回	5月15日 (水)
第 2回	7月10日 (水) 穂香の里業務監査
第 2回	11月7日 (木)
第 3回	2020年3月4日 (水) あかね業務監査

4、事業内容と管理者体制 () 内は再掲

拠点区分	事業種類	定員・規模	事業所名	管理者氏名
中野けんせい えん	老人福祉施設	110名	特別養護老人ホーム 中野けんせいえん	井上伸二
	短期入所生活介護	10名		
	障害者自立支援短期入所	(10名)		
	通所介護	15名	中野けんせいえんデイサービスセンター ひなた	赤木仁美
健生園	通所介護	45名	健生園デイサービスセンター	西崎弘美
	市総合事業・通所サービス			
	居宅介護支援	月280件	健生園指定居宅介護支援事業所	大野尚子
	在宅介護支援		健生園在宅介護支援センター	
あかね	軽費老人ホーム	50名	ケアハウス あかね	狩野理依
	訪問介護	日60件	ヘルパーステーションあかね	藤本好子
	市総合事業・訪問サービス			
	障害者自立支援訪問介護			
	福祉有償運送		岡山中央福祉会移送事業所	
さくら苑	介護老人保健施設	80名	老人保健施設さくら苑リハビリセンター	原野吏奈子 (統括管理者 伊達 隆)
	短期入所療養介護	(80)		
	通所リハビリ	70名		青木節子
	居宅介護支援	月300件	さくら苑指定居宅介護支援事業所	
	通所介護	35名	さくら苑デイサービスセンターつくしんぼ	藤原弘典
	市総合事業・通所サービス	(35)		
	在宅介護支援		さくら苑在宅介護支援センター	
会陽の里	養護老人ホーム	80名	養護老人ホーム 岡山市会陽の里	藤岡理恵
	岡山市短期入所	10名		
	通所介護	19名	会陽の里デイサービスセンター	
さっちゃん家	認知症対応型生活介護	9名	グループホーム さっちゃん家	中野光子
	通所介護	10名	デイサービスセンターさっちゃん家	

穂香の里	地域密着型介護老人福祉施設	29名	特別養護老人ホーム 穂香の里	久富めぐみ
	短期入所生活介護	10名		
	小規模多機能型居宅介護	登録29名	小規模多機能型居宅介護事業所 穂香の里	浅間仁司
	在宅介護支援		上南在宅介護支援センター	久富めぐみ
かなおか	サービス付き高齢者向け住宅	46室	サービス付き高齢者向け住宅 シルバーライフかなおか	片岡尚子
	通所介護	23名	デイサービスセンターかなおか	
	市総合事業・通所サービス	(23)		

(1) 各事業所の取り組みと課題

- ① 中野けんせいえんは、職員のやりたいケアから入居者本人・家族の求めるケアへの転換を図るために取り組みました。また、医療依存度の高い入居者への医療的対応を強化しました。
- ② さくら苑の在宅復帰機能の強化と大規模多機能施設として地域の在宅介護を支援する役割を両輪としてニーズに応える施設運営にチャレンジしています。
- ③ ケアハウスあかねは、特定施設として中重度化への対応と職員体制の課題がありながら個別ケアに取り組んでいます。
- ④ 会陽の里はデイサービスセンターと共に地域にひらかれた施設をさらに前に進めると同時に公的施設としての役割を発揮することをめざして取り組んできました。
- ⑤ シルバーライフかなおかは、ニーズが年々拡大しているサービス付き高齢者向け住宅の役割に応じた経営への転換
- ⑥ グループホームさっちゃん家は新築移転事業が始まり新たな地域との共同を進めています。地鎮祭を実施した(2月)
- ⑦ 経営面の課題を抱え、サテライト化の検討を進めながら地域のニーズに応える施設運営に徹して職員が取り組んでいます。
- ⑧ 健生園居宅・さくら苑居宅両居宅は、多様な地域ニーズに応じて積極的に利用者本位のマネジメントを実践しています。ニーズに応えるために職員の過重労働になりがちな状況をチームワークで乗り越えています。
- ⑨ 健生園デイサービスセンターは、開設以来の大規模改修で利用者や職員の生活環境の改善ができました。

5、組織図 (別紙)

6、事業所職員体制 () 内は再掲 (2020年1月末)

事業所名	常勤職員数	契約(兼務)職員実数	職員数合計	常勤換算職員数	19年3月常勤換算数	
					常勤	契約
特養中野けんせいえん	72	35	107	93.0	73	17.6
デイサービスひなた	2	8	9	6.2	2	4.5
健生園デイサービス	6	20	26	17.8	6	13.6
健生園居宅介護支援	7	0	7	7.0	7	0
健生園在宅介護センター	(2)					
ケアハウスあかね	13	20	33	25.2	14	11.1
ヘルパーステーションあかね	5	20	25	15.3	6	11.3
岡山中央福祉会移送事業所	(5)					
さくら苑入所	41	14	55	48.0	38	8.2
さくら苑デイケア	15	18	33	26.8	13	12.5
さくら苑つくしんぼ	8	8	16	14.8	7	6.9

さくら苑居宅介護支援事業所	6	0	6	6.0	5	
さくら苑在宅介護支援センター	(1)					
岡山市会陽の里	20	26	46	36.2	19	16.2
会陽の里デイサービスセンター	3	5	8	5.5	3	1.8
グループホームさっちゃん家	2	6	8	6.5	1	5.1
さっちゃん家デイサービス	2	9	11	6.5	3	5.8
特別養護老人ホーム穂香の里	21	16	37	28.9	16	7.4
上南在宅介護支援センター	(1)					
小規模多機能穂香の里	6	13	19	14.3	7	16.3
シルバーライフかなおか	2	14	16	8.7	2	6.4
デイサービスセンターかなおか	3	6	9	8.0	4	6.1
本部事務局	6	2	8	7.8	5	1.9
県民医連事務局への出向	1					
合計	241	240	481	383.8	237	152.4

7、主な事業開始・設備投資・資産処分

(1) 事業開始及びプロジェクトの取り組み

- ① グループホームさっちゃん家施設の新築移転
- ② 旧健生園施設活用事業の検討は保育園の設置は市街化調整区域のため行政判断としては難しい状況となった。来期の方向性をできるだけ早い段階で提案すること
- ③ 穂香の里経営改善プロジェクトを開催しサテライト化の検討、経営改善の検討を行った
- ④ 新居宅介護支援事業所の創設プロジェクトチームを設置し穂香の里内での設置に向け検討をすすめた

(2) 主な設備投資（500万円以上）の内訳

- ① さっちゃん家グループホーム建て替え（約1億3千万円）
- ② 健生園デイサービスセンター設備等の改修（約2千万円）
- ③ ケアハウスあかねで電子カルテ等管理システムの導入
- ④ さくら苑のベッドの更新（約2千万円）

8、2019年度の主な取組

(1) 経営組織強化

- ① 改正法に基づく評議員会・理事会の役割の明確化
- ② 会計監査人制度導入に向けての内部統制の仕組みづくりを進めた
 - 会計監査人による指導に基づく法人・事業所諸規程の見直しと内部監査の検討
- ③ 法人役員体制の強化
 - 理事会機能の強化（理事長・副理事長・専務理事・常務理事の役割明確化）を進めた

(2) 人材確保と育成の取り組み

- ① 人事部を中心に就職フェア・就職説明会への積極的な参加
 - 今年度6回の就職フェア・就職説明会へ参加した
- ② 人材確保を目的とした法人紹介パンフレットの作成とラインスタンプを作成した
- ③ 退職者を減らす取り組み

今年度、法人全体では46名の採用（正職14名、契約32名）となった。一方で退職者は55名（正職21名、契約34名）となり依然退職者は少なくありません。特に、今年度は正職の退職と比較的中堅の介護職の退職があり、新たな人材の育成・活躍の場づくりが必要です。

- 事業所の育成面談、退職者ヒアリング、職員ヒアリングの実施。

- 新規採用者を対象とした新入職員学校
- ベテラン職員（概ね15年以上）を対象とした研修会は実施できなかった
- 職員と事業所間のトラブルが数件発生しています。どちらかが一方的に悪いという事例はなく感情的なすれ違いが大半です。早め早めの対応に努めましょう

④ 職員の心身における健康増進の取り組み

- 定期健診結果に基づく個別指導、産業医による助言を行った
- ストレスチェックの実施とそれに基づくメンタルケアの実施
- 食事面から健康を維持するための職員給食の充実は十分な取り組みとはならなかった

⑤ 管理者・役職者の研修と育成及びメンタルケアの強化は十分な実施はできなかった

⑥ 働きやすい職場づくりの実現

- 子育て支援のための労度条件の改善に取り組んだが保育所不足により育休の延長、退職もあり大きな課題となっている。
- 夜勤体制の見直しと夜勤中の業務見直しは労組とも協議しているが十分な改善には至っていない
- 働き方改革法施行に伴い有休を誰もが5日以上取得できるよう記念日有休は実施できた

⑦ あらゆるハラスメントについて理解と対応

- ハラスメント防止規程を整備した
- 役職者への研修会を1回開催した。来期は職員を対象に実施予定

(4) 民医連・法人・主な施設における事業・イベント・研修会

入社式	4月 1日	
さくら苑まつり	4月28日	
県民連学術運動交流集会	6月 2日	
新任役職者研修会	6月22日	
健生園・あかね盆踊り大会	8月31日	
映画「ボケますからよろしくお願いします」上映会の共催	9月1日	
岡山市民のつどい	9月7, 8日	
会場の里まつり	9月 7日	
全日本民医連認知症懇話会イン岡山	9月27日～28日	
さっちゃん家まつり	10月13日	
穂香の里まつり	10月26日	
日本福祉大学社会福祉法人サミット防災研修会	11月11, 12日	(西大寺グランドホテル他)
法人経験交流発表会	12月15日	
言いたい知りたい西大寺	2020年1月26日	
民医連中四地協まちづくり交流集会	2月 9日	

(5) 災害対策・交通安全対策・介護事故対策等 安全安心の取り組み

- ① 交通事故による犠牲者に対する追悼（さくら苑） 4月1日
- ② 交通安全月間の実施は、全法人としてはできませんでした
- ③ 自然災害を含む災害対策指針の作成と災害発生時の避難訓練の開催としてあかね・健生園拠点において地域住民との合同避難訓練を実施した。また、砂川水害被害から1年が経過し上道・平島地区町内会と共同で交流会を開催した。
- ④ 法人災害対策委員会を結成し災害グッズ・備蓄食料等整備と災害発生時を想定した設備整備計画の作成に取り組んだ
- ⑤ 介護事故対応指針の作成と介護メディエーター（※）の養成は十分実施できなかった

どの事業所でも様々な家族とのトラブルが起こる可能性があり、現在裁判中の事例1件、家族との交渉中の事例2件が進行している。医療では、メディエーター（仲介者）を要請し事業所と利用

者の間で気持ちをくみ取り、中立的に対応できる職員を養成している。相談員・役職者の問題解決能力の引き上げと仲介者の養成に取り組む。

(6) 岡山中央福祉会友の会との協力共同と全職員参加の法人・共同組織強化月間（10月～11月）に取り組みました

「友の会」は、結成17年目を迎え、会員は3142名（2020年3月末）となり岡山中央福祉会との協力共同の組織と発展してきました。ブロック単位での友の会活動や班会など一定取り組まれています。活動会員の顔ぶれ、事業所内での活動などがマンネリ化しているのも事実です。友の会あるいはべんり屋事業をさらに広げるために事業所内、地域において「楽しく」活動できる友の会にリセットして取り組みます。友の会事務局長の交代によって新たな体制で会員との関係づくりが始まりました。

(7) 民医連をはじめ他団体との連携した活動

① 民医連の理念・方針を学びながら民医連の研修・活動に全ての事業所が積極的に参加します。とりわけ、民医連綱領ハンドブックの読了の取り組みは、過半数の部署で実施され民医連の歴史や実践の理解として意義のある取り組みとなった。綱領カフェも5事業所で行われた。

② 岡山医療生協と介護分野のみならず、地域での取り組みや研修に参加し組合員との交流を図ることができました。コープ西大寺まつりに在宅介護支援センターが相談コーナーを出店しました。

③ 岡山市社保協など各種の団体と連携し「安心・安全のまちづくり・社会保障制度づくり」に取り組みました。

④ 日本福祉大学社会福祉法人サミットは、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催が中止となった

⑤ 21老福連に加盟し職員交流集会等への参加を中四国ブロックで主体となって取り組んできました。来期、社会福祉法人の新たな団体設立に向けて協議を進めます

9、2019年度経営のまとめ(別紙資料)